

流山子育てパパへのアンケート調査の概要

2011.10.10 流山子育てプロジェクト

1) アンケートの目的

流山市において、父親の子育てに関する意識や実態を調査することによって、父親が母親とともに育児を楽しみ、次世代を担う子どもたちが健やかに育つためには何が必要であるかを探ることを目的とする。

2) アンケート調査の方法と内容

a) パイロット調査

アンケートは他市の男女共同参画社会に関する市民意識調査（2006）の質問項目を参考にして作成した。また、事前に父親数名に回答をしてもらい、質問項目の修正を行った。

b) 本調査

流山市に住んでいて、未就学児の子育てをしている父親を調査対象とした。調査対象者は、流山市内で開催された育児関係の講座の参加者や、本プロジェクトのメンバーの知人が主である。そのため調査対象者として、子育てに関心のある父親が多くなってしまう可能性も否めないことと、結果的にママは専業主婦が多かった。

調査は以下の要領で実施した。

- ・ 内容：A4 サイズ、4 ページ
- ・ 方法：手渡し、FAX、メール
- ・ 回答者：流山市在住で未就学児を育てている父親
- ・ 調査期間：2011 年 6 月から 9 月にかけて行った。

項目選択については該当するものに○印をつけてもらった（回収数 70（回収率 63.6%）、うち有効回答数 70）。また、分析のしやすさから「4 段階の評定尺度法」を原則とした。

調査内容は以下の通りで、17 の質問項目を設けた。

プロフィール【問 1】

■対象者の年齢、子供の数と年齢、両親との同居の有無、流山市での居住年数

■対象者及び配偶者の平均勤務時間、平日及び休日に子供と過ごしている時間

問 2	子育ては女性の方が向いているという考え方についてどう思うか
選択肢	「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの 4 段階選択
問 3	日常生活で子育てにどの程度関わりたいか
選択肢	「大いに関わりたい」から「全く関わりたくない」までの 4 段階選択
問 4	子育てを楽しいと思うか
	「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの 4 段階選択
問 5	問 4 で回答した理由（自由記述）

問 6	父親が子育てに関わる上での阻害要因とは何か（複数選択可）
	1. 仕事が忙しく時間がない、 2. 周囲の理解が得られない 3. 配偶者が口うるさい、 4. どうやって関わって良いのか分からない 5. 自信がない、 6. 世間体が気になる、 7. 配偶者がさせてくれない 8. 父親がするべきではない、9. その他（ ） 10. 特にない
問 7	育児で得意なことと苦手なことは何か 以下の 11 項目について、得意であるか苦手であるかのどちらかを選択する
選択肢	1. ミルクをあげる、 2. お風呂に入れる、 3. おむつ替え（おしっこ） 4. おむつ替え（うんち）、 5. トイレに連れていく、 6. 寝かしつけ 7. 子どもの食事（弁当も含む）をつくる、食べさせる、 8. 着替え、爪切り、散髪など日常の世話、 9. 遊びの相手、絵本の読み聞かせ、散歩など、 10. 泣きやませる 11. その他（ ）
問 8	配偶者とよく会話をするかどうか
	「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの 4 段階選択
問 9	子どもの都合で職場を休まなければならないとき、職場の理解があるかどうか
	「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの 4 段階選択
問 10	育児に関する制度で、職場に対する要望を選択（複数選択可）
選択肢	1. 制度を利用するときの周囲の理解がほしい 2. もっと制度を充実させてほしい 3. 休む時の代替要員を用意してほしい 4. その他（ ） 5. 特にない
問 11	地域活動やボランティア活動に参加しているか 本調査で言う地域活動やボランティア活動とは 自治会、保護者会、市民活動、パパの集まり 等をいう
	「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの 4 段階選択
問 12	地域活動やボランティア活動への参加の希望度合い
	「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの 4 段階選択
問 13	現在地域に育児について話のできるパパ友達がいるかどうか
	「いる」 「いない」 の 2 段階選択
問 14	地域でパパ友だちをつくるイベントがあれば参加したいかどうか
	「参加したい」 「参加したくない」 の 2 段階選択
問 15	地域で必要と思う子育て支援の内容について（自由記述）
問 16	地域で子ども連れでよく行く場所や、子どもと一緒に楽しめる場所について （自由記述）
問 17	子育てについて思うこと（自由記述）

3) 調査内容の選定

質問の各項目の選択肢の選定にあたっては、実際の子育て実態に即したものとするため、現在未就学児を育てている母親や育児支援等を行っている NPO 関係者からの意見を基に作成した。流山市に住む子育て世代の父親の実態や意識はどうなっているのかを調査する以外に、以下の点を重視して分析を行った。

①父親の子育て意識

父親の子育ての意識（楽しさや男女の役割についての固定観念）と子育ての関与とに相関関係があるのかどうかを探る。

②配偶者との会話

配偶者との会話の度合いが高いほど、子育てを楽しく感じているかどうかを探る。

③地域活動への参加

地域活動に参加しているパパほど、子育てを楽しんでいるかどうかを探る。

④パパ友の有無と地域活動への参加には相関関係があるかどうか。パパ友がいる人ほど地域活動への積極的な参加があるかどうか。

(4) 質問紙調査の結果と考察

① 回答者の属性

1) 回答者の年齢

回答者の年齢は、30代が最も多く78%（54名）、次いで40代が20%（14名）、30歳未満と50歳以上はともに1%（1名）であった。このことから、本調査の回答者の約8割が30代であることが分かった。

2) 子どもの人数

回答者が育てている子どもの人数は、1人が50%（35人）、2人が41%（29人）、3人が9%（6人）であった。平均すると、回答者の子どもの人数は約1.6人となる。平成22年度の合計特殊出生率は1.39で（厚生労働省平成22年人口動態統計月報年計）、千葉県全体では1.31であるから、この数値は平均よりも高い値であるといえる。

3) 一番小さい子どもの年齢

一番小さい子どもの年齢を平均すると、約1.7歳となった。

4) 同居の有無

回答者の両親との同居の割合として、同居していない人が89%（62人）、同居している人が11%（8人）であった。このことから、回答者の約1割程度しか同居をしていないことが分かった。

5) 流山市での居住年数

回答者の流山市での居住年数は、1年未満が3%（2人）、1年～5年が60%（41人）、6年～10年が20%（14人）、11年～20年が10%（7人）21年以上が7%（5人）であった。記載なしの回答者がいたので、合計は69となっている。

この結果から、回答者の約6割以上が、2005年8月のつくばエクスプレスが開通後に流入してき

たことが分かる。

6) 本人の平均勤務時間

回答者の1週間の平均勤務時間は52.48時間で、週5日勤務とした場合、一日平均10.5時間程度働いていることになる。

★ 配偶者の平均勤務時間：約7時間

回答者の配偶者の勤務時間を全体で平均すると、週に約7時間という結果となった。配偶者の勤務状態について更に調べてみると、専業主婦が54人と全体の77.1%を占めていた。全体のうち、16人(22.9%)が働いており、16人の平均勤務時間は30.5時間となった。

★ 平日、子どもと遊んだりする時間

平日、子どもと遊ぶ時間について質問したところ、0分と言う回答が14名で全体の20%、30分未満が13人で全体の18.6%、30分以上1時間未満と、1時間以上2時間未満がともに18人で全体の25.7%を占めていた。2時間以上4時間は7人で全体の10%であった。このことから、平日子どもと過ごす時間は「2時間未満」である人が全体の9割を占めることがわかった。

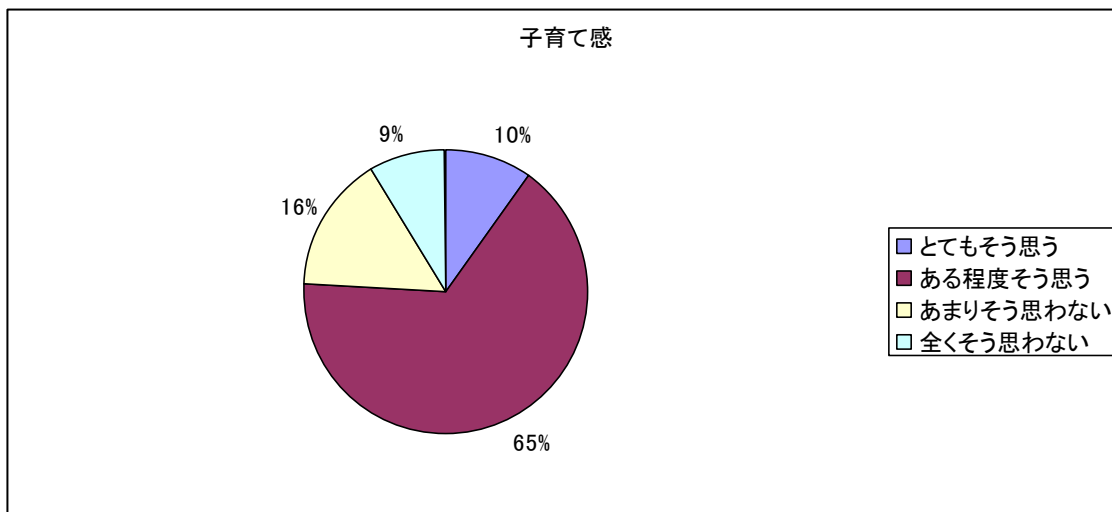
回答者の平日の平均勤務時間は約10時間なので、子どもと過ごす時間をとるのはなかなか難しいという現状が分かる。

★ 休日、子どもと遊んだりする時間：約5.6時間（終日は計算していない）

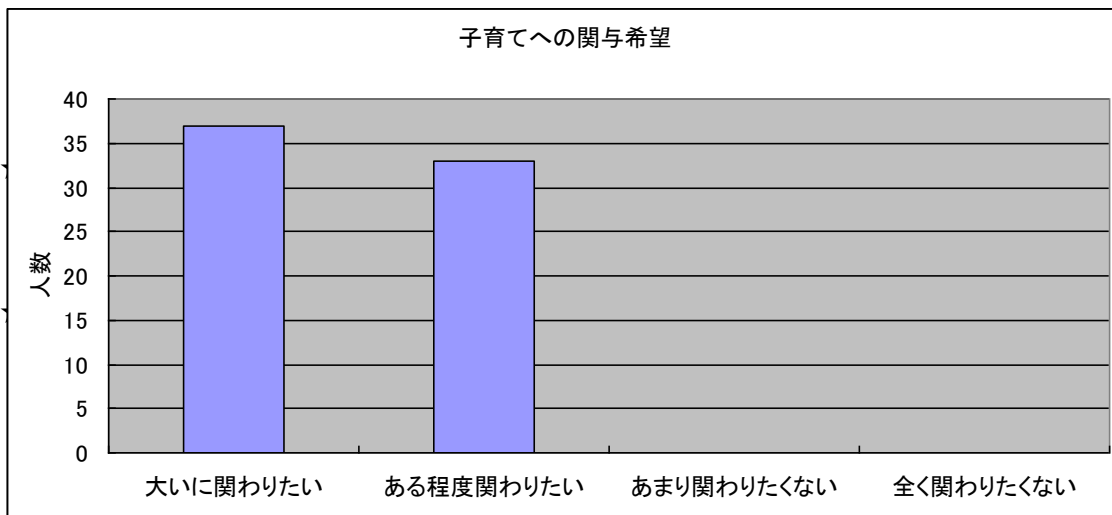
休日子どもと遊ぶ時間について質問したところ、5時間以上10時間未満が最も多く、23人(32.9%)、次いで10時間からほぼ1日が17人(24.3%)、1時間以上2時間未満と2時間以上3時間未満がともに8人(11.4%)、3時間以上4時間未満が11人(15.7%)、4時間以上5時間未満が3人(4.3%)であった。このことから、5割以上の回答者が休日は5時間以上子どもと過ごしていることが分かった。

★ 子育ては女性が向いているという考え方についてどう思うか。

子育ては女性が向いているという考え方についてどう思うかという設問に対して、そう思う（「とてもそう思う」から「ある程度そう思う」を含めた）と回答した人は53人で全体の75%、そう思わない（「あまりそう思わない」から「全くそう思わない」を含めた）と回答した人が17人で全体の25%であった。このことから、子育ては女性が向いていると考えている回答者が約8割いることが分かった。

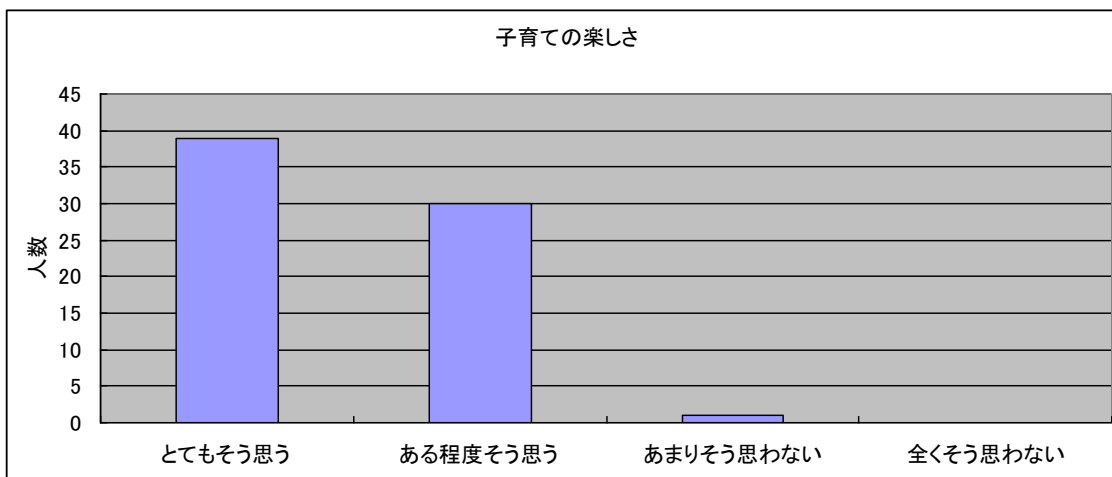


★ 日常生活のなかで、どの程度子育てにかかわりたいか



日常生活の中で子育てに関わりたいかという質問に対して、関わりたい（「大いにかかわりたい」から「ある程度かかわりたい」を含めた）と回答した人は100%となった。このことから、全ての回答者が子育てに積極的に関わりたいと考えていることが分かった。

★ 子育てを楽しいと思うか。



子育てを楽しいかという質問に対して、そう思うと答えたのはとてもそう思うとある程度そう思うと回答したのは69人（「とてもそう思う」から「ある程度そう思う」を含めた）で全体の99%、そう思わない（「あまりそう思わない」から「全くそう思わない」を含む）と回答した人は1人で全体の1%であった。あまりそう思わないと回答した人の理由として、「楽しさよりも辛さがある」と回答している。

上記の質問の回答に対する選択理由として、楽しい、面白いと回答した人が最も多く、22人で全体の31.4%、次いで成長が見られるからと回答した人が10人で全体の14.3%、かわいいからと回答した人が7人（10%）、学びがあるが3人（4.3%）、その他が8人（11.4%）、無回答が20人（28.6%）であった。

★子育ての阻害要因について

子育ての阻害要因として選択された中で最も多かったのは、仕事の忙しさで 57 人（81%）次いで、周囲の理解が得られない、どうやって関わってよいのか分からないがともに 4 人（6%）であった。また、育児に自信がないと回答した人も 3 人（4%）いた。また、世間体が気になるを選択した人は 1 人（1%）、特にないと回答した人は 7 人（5%）、その他を選択した人は 1 人（1%）で、内容としては授乳ができないことを挙げていた。

このことから、子育ての阻害要因としては、「仕事の忙しさ」が最も大きなものであることが分かった。その他、周囲の理解や世間体なども要因として挙げられていることから、今後の周囲の意識改革の必要性があるといえる。また、育児の方のやり方や、育児に対する自信のなさも 12%が要因となっていることから、父親向けの育児講座等を開催することによって、それらの要因は解消できると考えられる。

★ 育児において得意なこと

育児において得意なことと苦手なことについて質問した結果、得意なこととしてお風呂に入れると回答した人が最も多く、63 人で全体の 90%、そしておむつ替え（おしっこ）と回答した人が 62 人（89%）、遊びの相手、絵本の読み聞かせ、散歩などと回答したのが 59 人（85%）、トイレに連れて行くと回答した人が 56 人（81%）、おむつ替え（うんち）と回答した人が 53 人（76%）であった。その他として、楽しませる、育児以外の家事が得意という回答が 2 名あった。

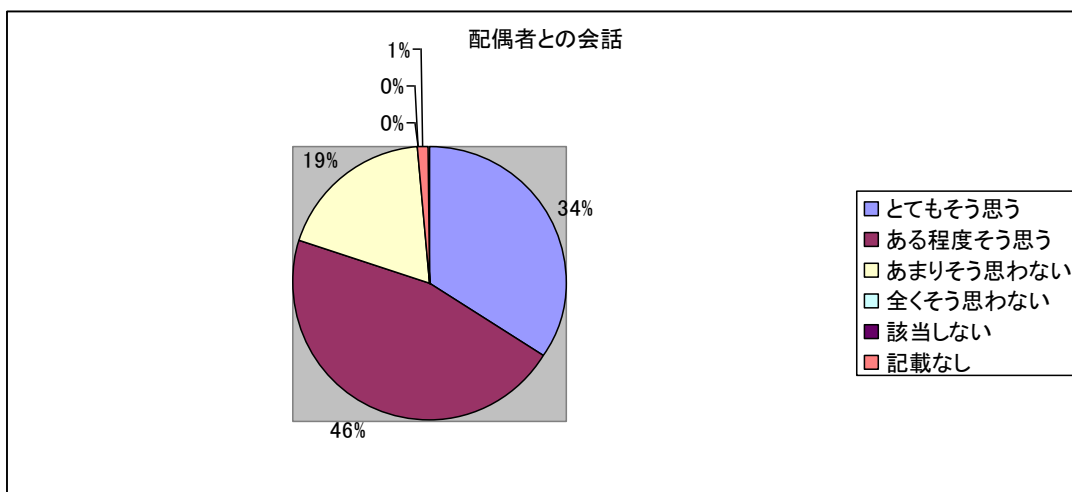
また、苦手なこととして、泣きやませると回答したのが最も多く 39 人で全体の 40%、次いで寝かしつけが 38 人（44%）、子どもの食事（弁当も含む）を作る、食べさせるが 33 人で（48%）、着替え、爪切り、散髪など日常の世話と回答したのが 25 人で 36%、ミルクをあげると回答したのが 17 人（24%）であった。

表1 育児で得意なことと苦手なこと

	得意なこと	割合	苦手なこと	割合
第1位	お風呂に入れること	90.0%	泣きやませること	55.7%
第2位	おむつ替え（おしっこ）	89.0%	寝かしつけ	54.3%
第3位	遊びの相手、絵本の読み聞かせ、散歩など	84.3%	子どもの食事（弁当も含む）を作る食べさせる	47.1%

● 配偶者との会話

配偶者とよく会話をするかという設問に対して、そう思う（「とてもそう思う」からある程度そう思う）と回答したのは 56 人で全体の 80%、そう思わない（「あまりそう思わない」から「全くそう思わない」）と回答したのは 13 人で全体の 19%であった。その他、無回答が 1 名（1%）であった。このことから、回答者の 8 割は配偶者と会話の時間を持っていることが分かる。



● 職場での理解

子どもの都合で職場を休まなくてはならない時の職場の理解の程度について、理解がある（「とてもそう思う」から「ある程度そう思う」を含めた）と回答したのは 55 人で全体の 78%、理解がないと回答したのは（「あまりそう思わない」から「まったくそう思わない」を含めた）13 人で全体の 19%であった。その他、無回答が 2 名（3%）であった。

また、育児休暇、看護休暇などの育児に関する制度についての職場への要望として、最も多く挙げられたのは、制度を利用するときの周囲の理解で 25 人（36%）、次いで制度の充実が 22 人で全体の 31%、休む時の代替要員を用意してほしいと回答したのが 18 人で全体の 26%であった。また、特にないと回答したのは 21 人で全体の 30%、その他の回答として、制度をとれるような環境ではないと答えたのは 3 人（4.3%）であった。

★ 地域活動等への参加度合い

現在、地域活動やボランティア活動（自治会・保護者会・市民活動・パパの集まりなど）に参加しているかどうかという設問に対して、参加している（「大いに参加している」から「ある程度参加している」を含めた）と回答したのは 11 人で全体の 16%、参加していない（「あまり参加していない」と「全く参加していない」を含めた）と回答した人が 59 人で全体の 84%であった。

★ 地域活動等への参加希望

地域活動やボランティア活動に参加したいかどうかと言う設問に対して、参加したい（「大いに参加したい」から「ある程度参加したい」を含めた）と回答したのは 36 人で全体の 51%、参加したくない（「あまり参加したくない」から「全く参加したくない」を含めた）と回答したのは 32 人で全体の 46%であった。その他、無回答が 2 人（3%）であった。

表2 パパ友の有無と地域活動

地域 パパ友	参加あり	全くなし
いる 22 人	72.7% 16 人	27.3% 6 人
いない 48 人	18.8% 9 人	81.3% 39 人

★ パパ友の有無

現在、地域で育児について話のできるパパ友だちがいるかどうかという設問に対して、いると回答したのは 22 人で全体の 31%、いないと回答したのは 48 人で全体の 69%であった。

★ パパ友づくりのイベント参加希望

地域でパパ友だちづくりのイベントがあったら参加したいかどうかという設問に対し、参加したいと回答したのは 25 人で全体の 36%、参加したくないと回答したのは 44 人で全体の 63%であった。その他、無回答が 1 人（1%）であった。

★自由記述について

●父親に向けた子育て支援の内容について

- ・ スポーツイベント 15
- ・ パパ向けサロン 5
- ・ 公園 2
- ・ 育児支援講座 6
- ・ おむつ台設置 5
- ・ 親子イベント 9
- ・ 親子で遊べる施設 3
- ・ 科学実験 2
- ・ 虫捕り 2
- ・ 児童館の土日開放 1
- ・ 長時間保育 6
- ・ 草笛大会、昔ながらの遊び 2
- ・ 土日診療の小児科を増やして欲しい

★ 地域でよくいく場所等

第1位：公園 16

第2位：おおたかSC 15

第3位：流山運動公園 13

第4位：江戸川の土手 6

第5位：柏の葉公園、ららぽーと、図書館

その他の意見：清水公園、みさと公園、ショッピングセンター、ユーカリ公園、100円ショップ、USランド（三郷）、市川動植物園、イトーヨーカ堂流山店、カエル公園、長崎小裏の川、プール、防災公園、水の公園、モラージュ柏の遊園地、レイクタウン、生涯学習センター、動物園、南流山中央公園、二木の菓子、流山駅(電車を見るため)

5. 子育てについて思うこと（フリーアンサー）

- 初めは不安だらけだったが、今では子育てをしていて自分も成長させられていることに気づいた。
- 幼児期は一生の中で数年なので社会全体が男性も関わることに理解があってもよいと考えています。
- 子育てができることは貴重な体験であり、素敵な経験になります。●子育てをすることで子どもが成長し、親自身が成長できる素晴らしい生活になります。多くのパパにこのことを早く知ってもらいたい、共働き夫婦が子育てしやすい社会にしないと色々な問題が解決しないと思う。●自分の時間が許す限り子どもと関わっていききたい。●もっと父親向けのイベントがあればいい、子どもを通して両親をはじめ命の繋がりを気づかされる。●子育ては親育てでもある。●休日、子どもと過ごすことでリフレッシュできる。もっと日本のお父さんは子どもと関わるべきだと思います。
- 母親の負担が大きすぎる。

(集計・分析：高橋)